

《令和4年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和4年6月30日（木）

時 間：15:30～17:40

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和4年度 第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化。

参加者：33名

特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問看護・お世話センター の各職員
阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、
阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

挨拶：阿南市保健福祉部 福祉事務所 石本所長

阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋先生



阿南市保健福祉部 石本所長



阿南医療センター 寺嶋先生

【講義1：アドバンス・ケア・プランニング（ACP）】

講師：阿南市医療センター緩和ケア認定看護師 中島氏



アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の基本と本人らしい人生の最終段階の支援手法について講義を頂いた。ACPはもしもの時の為に本人、家族等、そして本人に関わる多職種の医療・介護の従事者が一体となって関わるのが重要である。

ACPの定義として、ACPは将来の医療・ケアについて、本人を人として尊重した意思決定の実現を支援するプロセスであり、①人生の最終段階の医療・ケアについて本人が家族等や医療関係者・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス（厚労省 2018）、②将来の変化に備え将来の医療及びケアについて、患者を主体にその家族や近いしい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、患者の意思決定を支援するプロセス（日本医師

会 2018) が基本である。



本人にとって最善の方針を決定していくのに①人「現在」の本人の意思 ②人生の物語から見えてくる「過去」から語り継がれた本人の意思 ③医学的に有益であること ④医学的に無益でないこと ⑤家族等の関係者の意向や感情が穏やかであること ⑥苦痛のないこと ⑦利用可能な地域資源の制限 の7項目は特に重要項目である。また、コミュニケーションも重要であり、話す場所、人、タイミングを見極め、オープンクエス

ションで話を切り出すことも重要である。

【講義2：グループワーク】



グループワークでは、講義1で学んだことを踏まえ「もしバナゲーム」を7班で医療従事者と介護従事者等が均等に分かれ、自己紹介を行い、ACPの実践形式を行った。自分が患者の立場になり、ACPで重要な最善な方針へのコミュニケーション能力の向上を図った。各班より話し合った内容の発表をし、再度各班の発表内容を踏まえ班での話し合い

をしたことで、自分や事業所に無い考え方や手法を知り、今後の業務・対応への安心に繋がったとの意見があった。

また、今後もこのようなケアカフェに是非、参加したいとの要望もあった。阿南医療センターの寺嶋先生よりこのカフェで構築した関係で、医療と介護の連携による住民への安心を届けようと力強いお言葉があり、団結に繋がった。



【総評】

ACPは話し合いのプロセスであり、まずは信頼関係を築くことがとても重要で本人にとっての最善を考え、本人の価値観、信念、思想、信条、人生観や死生観、気がかり、願い、人生の目標など、人生の物語の中にある思いのかけらをキャッチし、多職種で共有し連携していくことで安心して頂くことがエッセンシャルワーカーの役割であると認識できた研修であった。

コロナ禍でなかなか会うことができない、名前は知っているが顔が分からない医療や

介護に携わる方々と直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、地域住民の皆様が在宅での生活が長く継続できるよう、専門性を高める良いケアカフェとなった。

感染対策として、阿南医療センター職員の御協力により自施設での確認・阿南医療センター玄関・会場と3か所で検温及び消毒の徹底をして開催した。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【研修会風景】



※研修動画を希望される方は阿南市在宅医療・介護連携支援センター

「anda-kan2@kenshokai.group」へメールにてご連絡ください。

尚、今年度のケアカフェの動画配信は**期間限定**ですので、配信期間以降の視聴はできませんので、御了承ください。

担当:センター長 湯浅 祐司